

オオウラギンヒョウモン

Fabriciana nerippe

兵庫県：絶滅

環境省：絶滅危惧 I A類(CR)

種の概要

前翅長30～38mm程度。翅の地色は橙色で、前後翅ともに黒斑を散布する。後翅裏面は緑黄色となり、銀白色から褐色斑を散布する。外縁部に沿った銀白色紋はハート型。平地から山地に生息し、幼虫はスマレなどを食べる。年1化性で、成虫は6月～7月に羽化し、夏季はほとんど活動せずに休眠し、9月に再び出現する。アザミ類などの花によく集まる。



写真提供：刈田悟史

国内分布

本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、尼崎市、宝塚市、川西市、小野市、多可町、姫路市、神戸町、豊岡市、養父市、朝来市、新温泉町、洲本市、南あわじ市

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○	○	○		○

特記事項

南部の平地では1960年代に激滅、北部の山地性草原（スキー場・放牧場）では1980年代を最後に生息が確認できない。南部は開発や農地、河川の改変、農業の機械化などでスマレが茂るススキ・チガヤの草原環境が消滅。北部でも草原環境は減少したが直接の要因は不明である。

保護上の留意点